「差別」と「区別」は違う意味

日高川町立美山中学校　３年　友渕　崇文

　最近は、ニュースやテレビ番組、教科書などで、「ＳＤＧｓ」という言葉をよく聞きます。僕も授業で習う機会がありました。そのとき、僕は一つ気になった言葉がありました。それは、「ジェンダー平等」という言葉です。言葉自体は聞いたことがありましたが、それの実態については、あまり知りませんでした。だから、調べてみることにしました。

　まず、「ジェンダー平等」について調べる中で、「ジェンダーギャップ指数」という言葉を知りました。それは、政治、経済などの部門の男女格差を数値化したものです。日本のジェンダーギャップ指数は世界で何位でしょう。なんと、日本は１５６ヶ国中１２０位です。僕は、その事実を知ったとき、驚きもありましたが、納得する気持ちもありました。日常生活を振り返ってみると、「子育てや家事は、女性の仕事」というイメージが定着していると思います。この考えは、最近は少なくなってきて、男性も家事、育児に参加する人も増えてきています。しかし、そのような考えを持つ人が中々減らないのも事実です。他にも、「女性はスカートをはくべき」や「女性は政治活動に参加すべきでない」などという考えを持つ人もいます。これらの意見は、単なる勝手な先入観によるもので、差別に他なりません。ジェンダー平等を目指すためには、このような偏見は無くさなければなりません。

　これらのことを調べていった中で、僕は一つ疑問に思ったことがあります。学校生活の中で、一度は経験があるかもしれません。休み時間に、多勢でドッヂボールをしていて、男子が女子にボールを当ててしまいました。このとき、「女子なのに可哀想」という声が上がると思います。ジェンダー平等を目指す上では、このような考え方も無くしていくべきなのでしょうか。「女子なのに」という言葉はジェンダー差別になるのでしょうか。僕は、そうは思いません。なぜなら、これは、ただ単に他人を気遣って言ったものだからです。何より、男子と女子ではまず力に差があるので、男子が考えて丁寧に動くのは普通のことです。ジェンダー平等を目指すためには、互いの違いを考えることも必要だと僕は思います。

　僕は、ジェンダー平等について調べて、進めていくために、何が最も重要か考えました。女性に対する先入観を無くすことも大切です。しかし、僕はそれ以上に、男性と女性をある程度区別することが大切だと思います。

「平等を目指すのに区別するなんておかしい。そんなの差別だ。」

と思う人も多いでしょう。しかし、区別することは、ジェンダー差別にはならないと僕は思います。まず、「区別」と「差別」という言葉は似ているように見えますが、意味はかなり変わってきます。「差別」は、「人やものの取り扱いに差をつけること」です。それに対して、「区別」は、単に「違いによって分けること」です。男性と女性では性別が違うのですから、様々な違いが生まれるのは当然なことです。重要なのはその違いをどう捉えるかだと思います。その違いを低く見るのではなく、お互いにそれを理解し、尊重し合うことが必要です。逆に、その違いによって得意、不得意が生まれるのに無理に平等にすることは、それぞれの

負担がより大きくなるだけだと思います。だから、それぞれの違いを理解し、尊重した上で最善策を考えることがジェンダー平等につながると思います。

しかし、家事や子育てをしたり、政治活動に参加したりする上で、男性と女性で違いは全くありません。ここで男性と女性で分けるのは、ただの先入観による差別です。このような差別は絶対に無くさなければならないのです。

日本は、海外に比べてジェンダー平等が進んでいません。ジェンダー平等には、僕たち一人一人の意識の変化が必要不可欠です。だからこそ、女性を先入観で見ず、違いを尊重できる人が増えて欲しいです。そして、ジェンダー平等が進み、一人でも多くの女性が幸せを享受できる社会になることを願っています。